

# 非文字資料研究

The Study of Nonwritten Cultural Materials

NewsLetter

2005.12

No.10

CONTENTS

## 表紙写真説明



「神田明神曙之景」(『名所江戸百景』広重画 複製版)

神田明神(現、神田神社)は本郷台地の縁にあり東に開けていたので、愛宕山と並んで、江戸の町を見晴らす展望台でもあった。世界は日の出を待っている。「曙之景」という題名にその瞬間が暗示されている。荘厳さを感じさせるのは、その瞬間のためだけではない。これは新年の「若水汲み」ではないかと指摘したのは、神田神社の清水祥彦権禰宜である。そして新年の若水汲みは命の甦りである。

『名所江戸百景』が地震から復興する、あるいは新生する名所を描いた企画であるという自説を加味すると、若水汲みという図像によって地震からの町の甦り、すなわち復興を描いたという絵解きが可能になる。改印の月である安政4年(1857)9月には神田明神の隔年の祭が挙行されている。それをきっかけにこの場所が選ばれた。ただし、神職、巫女、仕丁が待ち望む、朝日の昇る辺りは、中央の木で巧妙に隠されている。地震から約2年、闇に沈む世界は、日の出(つまり江戸の町の完全復活)を待っているのか。

では、この場所は境内のどこであるか。神社が所蔵する、境内を描いた肉筆画や広重自身の錦絵によって、御社殿の前に3本の木と末広稲荷社(絵の右端の赤い建物)があるのが確認できる。したがって、現在の建物の配置からは想像できないが、御社殿の前あたりから南東側を見た光景ということになる。

図像の解明はCOEのテーマであるが、摺りにも注目されたい。ぼかしが各所に美しく散られ、巫女と仕丁の白衣には布目摺りが使われている。題名を記す色紙型関防も、絵の配色と同じ仕様に仕上げている凝りようである。(原信田 實)

## 巻頭言

田上 繁(歴史民俗資料学研究所委員長・COE事業推進担当者)



## 第1回 COE国際シンポジウム プレシンポジウム 開催レポート

はじめに 4

国際シンポジウム 「非文字資料とはなにか」

開催レポート

プログラムスケジュール 5

セッション 「記号と写真」 6

セッション 「身体技法と祭祀芸能」 6

セッション 「民具と民俗技術」 7

セッション 「非文字資料の情報化と教育」 8

## 海外提携研究機関 COE国際シンポジウム参加記

「世界文明論構築の新視野」 王 勇 9

「非物質文化遺産研究との連携」 王 曉葵 9

「人類文化研究の新しい天地」 陳 勤建 10

「『非文字』と『非言語』のあいだ」 村上 史展 11

「歴史の復権と非文字資料」 許 南麟 12

「文化表現に対する理解」 織田 順子 14

海外提携研究機関代表者懇談会 14

## プレシンポジウム 「版画と写真」

開催レポート

プレシンポジウム 15

同時開催 企画展示 16

コラム 「開拓定住」を問う場としての北海道 17

土田 拓

## 研究エッセイ

## ESSAY

「非文字資料」と国際交流日誌 18

ジョン・ボチャラリ

## フィールドノート

## Field Note

韓国全羅南道の旧神社跡地調査報告 20

金 花子

## 海外博物館事情

## Foreign Museums

## オーストラリア

多文化展示への模索 22

サイモン・ジョン

2004年度外部評価と対応策 24

21世紀COEプログラム委員会による中間評価 27

主な研究活動 28

受贈図書一覧 30

彙報 31

Report & Information 32